

ヘルプマークの概要

(1) 目的

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助が得やすくなることを目的としています。

ヘルプマークを持つことで支援を必要としていることを知らせることができ、周囲の方に支援や援助を促すことができます。

(2) 形態

「ヘルプマーク」は、マーク本体（吊り下げバンド付）、裏面貼付用シール、説明書の3点が1セットとして梱包されています。



- ・ 本体 縦 85.0mm×横53.0mm
(吊り下げバンド 縦 224.0mm×横11.0mm)
- ・ 裏面貼付用シール 縦 69.5mm×横43.5mm
- ・ 説明書 A 5 版

*デザインは、東京都により商標登録され、規格も東京都により定められています(5頁参照。)

(3) 使用方法

① 「ヘルプマーク」の着用方法

ストラップを利用して、鞆等につけて使用します。

常時着用する、必要な時に着用する等用途に応じて使用してください。

(使用上の注意)

- ・ストラップがドアに挟まらないように注意すること。
- ・紛失に注意すること。



② 付属のシールについて

「ヘルプマーク」の裏面に付属のシールを貼ることができます。

シールには、「ヘルプマーク」の利用者が、周囲の方に伝えたい情報や必要とする支援内容などを記入することができます。

<ヘルプマーク付属のシール>

(記載例)

わたし じょうほう ・私の情報
わたし なまえ でんわばんごう 私の名前、電話番号
よ ひと なまえ 呼んでほしい人の名前
しえん ・支援してほしいこと

(記載例)

● 利用者の情報

利用者の氏名、電話番号、血液型、通院の状況、緊急連絡先等

※ 個人情報の取扱いには十分留意してください。

● 支援・配慮してほしいこと

- ・() が不自由です。
- ・ペースメーカーを使用しています。
- ・コミュニケーションが苦手です。 など

③ 説明書について

視覚障害のある方などに対応するため、音声コード（Uni-Voice）を添付しています。携帯電話やスマートフォンを利用して、説明書の内容を聞き取ることができます。

なお、読み取り方法などについては、日本視覚障がい情報普及支援協会のホームページより確認してください。

【日本視覚障がい情報普及支援協会HP】<https://www.javis.jp/>

（４）得られる配慮の例

① 電車・バス等、公共交通機関での優先座席の利用

- ・ 外見では健康に見えても、疲れやすかったり、つり皮につかまり続ける等の同じ姿勢を保つことが困難な方がいます。
- ・ 配慮を必要としていることが外見から分からないため、優先席に座っていると不審な目で見られ、ストレスを受けることがあります。

② 駅や商業施設等で、声をかけてもらうなどの配慮

- ・ 交通機関等の事故等、突発的な出来事に対して臨機応変に対応することが困難な方や、立ち上がる、歩く、階段の昇降などの動作が困難な方がいます。

③ 災害時に、安全に避難するための配慮

- ・ 視覚や聴覚に障害があり、状況把握が難しい方、肢体に障害があり自力での迅速な避難が困難な方など、様々な方がいます。

このような援助や配慮が必要とされる場面で、ヘルプマークを持つことで「支援を必要としていること」を周囲に知らせることができます。

（参考）ヘルプマークのデザインについて

デザインについては、著作権は東京都に帰属するとともに、東京都が商標登録をしているほか、日本工業規格（JIS）に登録されています。ヘルプマークは、デザイン及び配布するヘルプマークともに、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）、永井氏及び柴田氏の協力のもと作成されています。

〈デザインコンセプト（永井氏からのコメント）〉

「✚」と「♥」という、誰もが知っているシンボル（＝ビジュアル言語）を組み合わせることによって、援助や手助けが必要であるという意図を周囲の人々が直感的に把握し、すぐに行動に結びつけられることを意図しています。

赤は「ヘルプ＝普通の状態ではない」ことを発信し、ハートは相手に「ヘルプする気持ちを持っていただく」という意味を含んでいます。

色や形状についても、周囲の人々に気づいてもらいやすいものにしていきます。大きさは、世の中への浸透しやすさを考慮し、誰もがなじみのある一般的なカードとほぼ同じ大きさにしました。

多くの方に利用いただき、この仕組みがより広く浸透することで誰もが助けたり、助けられたりすることが、ごく普通のことになっていくことを目指しています。

（JAGDA概要）

昭和53年、日本で唯一のグラフィックデザイナーの全国組織として設立され、現在では、約2,900名の会員が所属するアジア最大級のデザイナーの団体である（会長：浅葉克己）。その活動は、作品集や書籍の発行、新人賞の選出、展覧会やシンポジウムの開催、デザイン教育、公共デザインや地域振興への取り組み、国際交流等、多岐にわたっている。これらの活動を通して、日本のグラフィックデザインの発展と、コミュニケーション環境の質的向上に大きく寄与してきた団体である。

◆グラフィックデザイン

永井一史（Kazufumi Nagai）

HAKUHODO DESIGN 代表取締役社長／アートディレクター

◆プロダクトデザイン

柴田文江（Fumie Shibata）

Design Studio S 代表／プロダクトデザイナー

【出典】 ヘルプマーク作成・活用ガイドライン
（東京都福祉保健局障がい者施策推進部計画課）